

Vol.127



他社に負けない戦略を描けるか？

収納サービス ニーズつかむ

自宅や職場で収納スペースに困ったら頼りたいトランクルーム。コンテナタイプの屋外型、空調設備を整えた屋内型と種類、大きさはさまざま。認知度も高まり、市場は拡大傾向。県内外の運営企業に戦略を聞いた。



大成倉庫が運営するトランクルーム「蔵ぞう」＝大分市新川町

安心・安全の屋内型と有人サービス

蔵ぞう＝大成倉庫(大分市)

大分市新川町のトランクルーム「蔵ぞう」は大成倉庫(同市)が手掛ける。鉄筋コンクリート3階の建物内には広さが異なる約300室がある。料金は0.5坪で月額4125円(税、火災保険料など含む)から利用できる。大きな荷物は専用のフォークリフトで出し入れすることもある。

屋内型の強みは安心・安全。倉庫内の温度と湿度は一定。営業時間内はスタッフが常駐し、出入りをチェックする。管理体制や設備が基準を満たした施設として、国土交通省から優良トランクルームの認定を受けている。

稼働率は約90%。蔵ぞう担当の鈴木章志さん(65)は「利用者は増加傾向。24時間営業ではないが、有人サービスだからこそ安心安全に使ってもらえるメリットがある」と説明する。

同社がトランクルーム事業を始めたのは2003年6月。倉庫はもともと乾シイタケなどの保管に使っていたが、需要が減り、空きスペースが増えた。荷物預かりのプロとして、個人客や一般事業所向けに使えないか考えたのが始まりだった。18年たったが、開業以来のなじみ客もいるという。

認知度向上とともに住宅事情の変化も後押しする。最近は一軒家でなく、収納スペースが比較的少ない賃貸アパートやマンシ



「蔵ぞう」は屋内型で、大型の荷物はフォークリフトを使って出し入れする

ョンで暮らす人も多い。トランクルームは趣味の道具やコレクションから、シーズンだけしか使わない布団、こたつ、衣類などを保管するのに便利だ。

個人の利用が中心だが、法人利用も全体の3割を占める。会社の書類や備品を預けるなど、オフィスが狭い会社が「押し入れ、代わりに使うこともあるという。

安藤暢啓代表取締役社長(57)は「県内でも競合他社が増えてきた。利用者が何を求めているのか、常に分析して特色を出していきたい」。より使いやすいトランクルームを目指し、模索を続ける。

2、3面に続く